「スポーツの IT 化」の危険性～スポーツの歴史的背景を踏まえて～

A study on Danger of Information-Technologizing of Sports —on the Basis of Historic Background of Sports.

1K04B191-2

伏見 慎剛

指導教員

主査 志々田文明先生

副査 石井昌幸先生

問題の所在

近年の急速なインターネットの普及によって、メディアの環境は大きく変容した。また、スポーツはメディアと今や不可分の関係になったと言えるほど密な関係である。スポーツと不可分の関係にあるメディアの変容は、スポーツに対しても影響を与えるだろう。しかしながら、メディアが変化することだけが、スポーツに対して影響を与えるのではなく、その社会のパラダイムからの影響を大きく受けるだろうと考えた。そこで、スポーツが IT 社会というパラダイムの中で、変容した姿を「スポーツの IT 化」という言葉で表し、その危険性を論じることが動機である。

また IT 化社会の構成要素として成果主義と格差社会というものに着目し、メディア側からスポーツへ、視聴率という成果を追及されることによる競技の格差と淘汰に問題を設定した。

研究方法

上記問題を解決するために、以下の方法・手順をとった。

- ① 前近代から近代へと社会構造の変化が、近代スポーツ登場の背景となっている。まずは、現在におけるスポーツがどのような経緯で誕生したのかを、社会構造、産業構造の変化と関連付けて振り返る。
- ② 現在では不可分の関係と言えるスポーツとテレビの関係について、その経緯、背景を踏まえた上で、論じる。
- ③ また、インターネットの急速な普及に伴う、テレビとインターネットを中心としたメディア構造の変化を「放送と通信の融合」という議論を元に考える。
- ④ ①～③を踏まえた上で、「スポーツの IT 化」による危険性について論じる。筆者が考える「スポーツの IT 化」とは、IT 社会の構造がスポーツに影響を及ぼした際に、生じるスポーツ構造の変化のことを指しており、筆者の考える仮説である。IT 社会の構造とは何かを明らかにすることで、スポーツに IT 社会のパラダイムがどのような影響を与えるかを明らかにすることで、危険性を論じる。

本論の構成

第一章では、今日スポーツと呼ばれているものをその歴史的背景の考察を試みた。スポーツという言

葉は、今日色々な意味を持つ。そのため、ホイジンの言う、遊びを根底に持つスポーツ、近代スポーツを取り上げ、また近代や、産業革命がスポーツに与えた影響についても論じた。

第二章では、スポーツとテレビの関係について論じた。現在におけるスポーツとテレビの関係だけを考察するだけでは、関係の本質を見ることができないと考え、スポーツビジネスの登場に影響を与えたマーケティングと、スポーツマーケティングについて、さらにテレビの歴史についても振り返った。

第三章では、昨今よく耳にする「放送と通信の融合」という議論について考察し、現在起きているメディア環境の変化について論じた。スポーツとメディアは不可分の関係にあり、メディアの中で起きている変化はスポーツにとっても影響を及ぼすと考えた。

第四章(結論)では、まず、スポーツとインターネットの可能性について、両者の相性という面から論じた。またテレビとスポーツの相性をもう一度確認することでインターネットとの比較も行った。次に、問題に設定した「現在の IT 社会によって加速される成果主義や、格差社会の構造がスポーツにどのような影響を与えるか」を論じた。社会的背景を中心してどのような構造で成果主義や、格差社会が生まれたのかも明らかにしながら述べた。

研究を終えて

現在、あらゆるところで情報が溢れ、選択肢が増えた。それによって、何をやるにも自分の意志を求められ、自らが「インターネットの性質のように passive」で、「インターネットに接するようにアクティブ」に生きなければならなくなった。これは、豊かさによって生まれたものであることは間違いない。

1970 年代に「いかに生きるか」という考えが生まれた。しかし、それから約 30 年の間に「自分の意志によっていかにでも生きられる」時代になった。しかし、これはヒトだけではなく、スポーツにも言えるのではないだろうか。スポーツは、インターネットの登場によって、自らの意志によって、生きることが可能となった。しかし、ヒトと同じく強くなければ生き残ることはできない。

その強さとは、産業基盤の安定化だろうか。競技人口の増大だろうか。いや、生活の基盤に根付いた文化、伝統としての定着ではないだろうか。